

# 建設情報 Iwate

## 5回程度で中間とりまとめ

### 第2回地域医療検討会議 協議のテーマなどを確認

奥州市が地域医療体制の再構築に向け、郷右近浩市長と地域医療関係者が対話する場として設置した地域医療検討会議の第2回会合は22日、奥州市役所で開かれた。今回は、今後のスケジュール、将来の人口推計と医療需要の変化などをテーマに意見を交わした。会議は非公開で、会合を5回程度開いた段階で中間とりまとめを行うことなどを確認したとしている。次回は7月中の開催を予定している。

開会に先立ち、郷右近市長は「第1回の会議では、胆沢病院が地域の急性期医療を担い、核として地域医療が成り立っていること、医師の偏在や医師不足といった将来推計をしっかりと捉えていかなければならないなど多くの意見をいただいた。課題を共有しながら、どのように対処すべきかも合わせて話を詰めていきたい」とあいさつした。

会合後、取材に応じた郷右近市長らによると、今回の会議では「会

合を5回程度開いた段階で中間とりまとめをすることを確認したほか、5回目までのスケジュール、各回のテーマを示した」としている。会合は、2カ月に3回程度のペースで開く予定でいる。

各会合で出された意見等は、各委員の了承を得た後に次回の会合まで市ホームページに公表する予定。各回に話し合うテーマについても同様に公表する構えでいる。中間とりまとめの段階には、市議会にも報告する予定でいる。

郷右近市長は、「今回も良い意見交換ができたと思っている。テーマに沿って、各委員から活発なお話をいただき、オブザーバーにもいろいろな形で発言いただいた。今回のテーマでは、各委員の思いについて、共通の認



地域医療検討会議の第2回会合

ニュースのお知らせ  
〒020 0015 盛岡市本町通3-9-33  
本社編集部へ  
TEL (019) 623-8201  
FAX (019) 623-8204

識的なものができた」と話していた。

市では、新医療センターに関して、現在の整備基本計画を一旦中断し、実質的に事業を凍結。地域医療の在り方をゼロベースから再検討する方針を示している。地域医療体制の再構築に向けた今後の進め方の一つとして、地域医療関係者と対話する場を設定した。

会議は、市、奥州医師、管内の県立2病院、2民間病院、市立の総合水沢病院とまごころ病院で組織するほか、オブザーバーとして県奥州保健所、県健康福祉部、県医療局が参加。公立と民間の医療機関の役割分担や連携の在り方、進め方などについて意見交換し、一定の方向性を見出していく。

## 長谷堂線などで工事を推進

### 大船渡市 市道の通学路整備事業

大船渡市では通学路交通安全プログラムに基づき、通学路整備事業を進めている。26年度で工事を計画する「市道長谷堂線通学路整備(緊急対策)工事」は入札済み。「市道中井下欠線通学路整備(その2)工事」は現在、下水道工とともに公告中となっている。このほか「市道石浜東線通学路整備(緊急対策)工事」は6月にも、「市道山根線通学路整備(緊急対策)工事」は7月以降の公告を予定。さらに今年度は、緊急対策工事として市道中井下欠線と市道富岡線でも整備を計画している。緊急対策分は国の補助のため、年度内での完成を見込んでいる。

「市道長谷堂線通学路整備(緊急対策)工事」は同市猪川町字長谷堂で、片側に歩道を新設する計画。施工延長は約200メートルとなっている。工事は匠建設が落札済みとなっている。

現在公告中の「市道中井下欠線通学路整備(その2)工事」は工事場所が同市猪川町字長洞地内外。工期は249日間。施工延長は294メートルで、側溝工やアスファルト舗装などが盛り込まれている。

「市道石浜東線通学路整備(緊急対策)工事」の施工場所は同市

三陸町稜里字八ヶ森地内。現道は歩道が付いておらず、歩行者空間の拡幅を実施する計画だ。施工延長は約180メートルを見込む。

「市道山根線通学路整備(緊急対策)工事」は同市末崎町字山根地内で、アスファルト舗装工や側溝工などを計画している。

このほか、緊急対策分の市道中井下欠線(同市猪川町字長洞地内)と、市道富岡線(同市猪川町字富岡地内、施工延長約30メートル)でも工事を予定しており、7月以降の公告を想定している。

## 今年度で完了予定 津谷川の改良事業

県南広域振興局土木部一関土木センターが改良事業を進める、一関市室根町津谷川の主要地方道本吉室根線では、現地で施工が進んでいる。今年度での事業完了を予定しており、主だったものとして最後の発注となる「主要地方道本吉室根線津谷川地区道路台帳整備(調査・測量)業務委託」が、同

局一関審査指導監から公告中となっている。

津谷川は、全体計画が延長200メートル、幅員5.5メートル(9.2)メートル(2車線片側歩道)。20年度から事業を進めており、2億5000万円の総事業費を見込む。

本吉室根線は、気仙沼市本吉町を起点とし、一関市室根町に至る路線。宮城県との交流連携に重要な路線であり、地域住民の生活に欠かせない路線となっている。

今回改良を計画する区間の現状を見ると、当該区間前後は2車線

を確保しているものの、当該区間では幅員狭小で急カーブがあり、歩道もないことから、安全で円滑な交通の支障になっている。カーブは「く」の字のような形となっており視距が良くなく、過去には事故も発生している。

地元から要望が出ているほか、一関市からは重点項目として改良を求める要望が出されている。幅員が狭小で線形不良、交通あい路となっている区間を解消することで、安全で円滑な交通を確保し、地域間の交流を促進するとともに、安全で円滑な交通と歩行者の安全な通行の確保を図ることに向け、事業を実施する。

路線の東側は津谷川が流れ、西側は地山に囲まれている。現道は、幅員が狭い箇所が4.5メートル、広い箇所が5.5メートル程度となっている。

事業では、河川側に現道の幅員を広げ、線形改良も図る。歩道は西側に設置、地山について一部法

面工を実施する。法面工については、コンクリートブロック積みで対応する。

施工は24年度から開始し、同年度に道路土工や法面工を実施。現在は、25年度から開始した本施工が進められており、道路土工や大型ブロック積工、横断管渠工、側溝工、アスファルト舗装工、防護柵工を内容とする。

今回公告した台帳整備は、道路改良に伴う行うものとなる。委託延長0.39キロ、道路台帳図作成0.39キロ、3級基準点測量2点、4級基準点測量7点を、100日間の期間で実施する。

現在進む施工は、10月頃までには完了となる見込み。台帳整備も進めて津谷川での事業は完了となる。

## 建築申請

▽建築主、住所、建築場所、用途、構造・階数(W=木造 S=鉄骨造 RC=鉄筋コンクリート造)、面積、設計、施工、確認済証の交付月日  
県南広域振興局土木部  
▽4月28日  
▽(株)スマイヴ代表取締役伊藤功  
奥州市水沢神明町二丁目4番1号  
金ヶ崎町西根矢来6-2の一部

一戸建ての住宅(金ヶ崎町西根矢来B区画)新 W1(在来工法) 79.49㎡ Smive建築研究所 スマイヴ 4月22日  
▽合同会社阿部農園代表阿部哲夫  
金ヶ崎町永沢関合1 同檜ノ越 8-1、22-1 農機具格納庫(倉庫)増 S1 77.78㎡ 建築設計おぼろ事務所 直営工事 4月21日

出版物のお問い合わせは  
☎019-623-8201 営業局まで

# いわて防災学教室

災害から学び、災害に備える

## 北海道・三陸沖後発地震情報の発表 :2025年12月8日の青森県東方沖の地震



岩手大学理工学部システム創成工学科准教授

山本 英和

2025年12月8日23時15分頃、青森県東方沖を震源とするマグニチュード7.6(翌日に7.5に修正)の地震が発生した。震源は八戸市の東北東約80km付近、震源の深さは54km(暫定値)であった。青森県八戸市で最大震度6強を観測したほか、北海道から近畿地方にかけての広い範囲で震度6弱から震度1を観測し、青森県三八上北では長周期地震動階級3が観測された。同日23時23分には、北海道太平洋沿岸中部、青森県太平洋沿岸、岩手県を対象に津波警報が発表された。

津波は久慈港で0.7m、北海道浦河で0.5mなど、北海道から福島県にかけての太平洋側で観測された。各地で揺れによる被害が確認され、N T T東日本によると、N T T青森八戸ビルでは鉄塔の一部に損傷が見つかり、状況確認のため周囲が一時立ち入り禁止となった。

また、この地震を受けて気象庁は12月9日2時に「北海道・三陸沖後発地震注意情報」を発表した。これは、想定される震源域内でモーメントマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合、新たな大規模地震の発生可能性が平常時と比べて高まっているとして、今後1週間、日頃の備えの再確認などを呼びかける情報である。2022年12月の運用開始以来、初の発表となった。可能性が高まっているとはいえ、世界の大地震の統計からは「100回に1回程度」の確率であるため、ただちに避難する必要はないが、改めて地震への対応を確認することを求めるものである。

その後、12月12日11時44分には青森県東方沖(えりも岬の南南西約120km)でマグニチュード6.7の地震が発生した。これは8日の地震よりも海側、かつ浅い場所で起きており、プレート境界で発生した地

震と考えられる。この時も津波注意報が発表された。注意情報に基づく呼びかけは12月15日をもって終了した。しかし、この「1週間」という期間は社会的な活動制限を考慮したものであり、科学的な根拠に基づく明確な区切りではない。過去の南海トラフ地震の例を見ても、1854年の安政東海地震の32時間後に安政南海地震が発生したケースや、1944年の東南海地震の2年後(1946年)に南海地震が発生したケースがある。もともこの地域は近い将来に大地震が発生すると考えられており、強震動や津波の予測が進められている。行政も市民も、日頃からの備えを継続することが不可欠である。

青森県東方沖地震の震源過程の解析によると、今回の地震の破壊域(すべり域)は、1968年十勝沖地震における二つのアスペリティ(強く固着している領域)のうち、北側のものとほぼ一致するとの報告がある。南側のアスペリティは1994年の三陸はるか沖地震の破壊域と一致している。この周辺のアスペリティは数十年の間隔で繰り返し破壊されることが多い。前回の地震から30年以上が経過していることを鑑みても、近いうちに再び大地震が発生する可能性は十分に考えられる。実際、より南側の三陸沖では、2026年4月20日にマグニチュード7.7の地震が発生し、再び後発地震注意情報が発表されている。三陸沖は数十年から数十年単位で大地震が頻発する地域であり、いつ地震が起ころとも対応できるよう、常日頃からの備えが極めて重要である。

(参考文献:気象庁、地震調査研究推進本部)

※いわて防災学教室のバックナンバーは、岩手大学地域防災研究センターのホームページ「公開情報」で閲覧できます。

# 北海道から沖縄までの地域建設専門紙33紙が手を取り合いました!

# 全国の建設産業界へPRするならご活用ください



- 1 簡単契約 (1社との契約で33紙に広告配信)
- 2 格安料金 (全国紙と比べて掲載料金は格安)
- 3 効果抜群 (中小建設業者中心に74万の読者)
- 4 記事紹介 (製品紹介など全紙に無料で掲載)

| サイズ   | 金額         | サイズ   | 金額         |
|-------|------------|-------|------------|
| 3段1/2 | 673,200円   | 全4段通し | 1,793,000円 |
| 全3段通し | 1,346,400円 | 全5段通し | 2,241,800円 |

(税込)

※広告制作費、代理店手数料は上記金額に含まれていません。

## 『地方建設専門紙の会』加盟紙

- 北海道建設新聞
- 日刊青森建設工業新聞
- 日刊岩手建設工業新聞
- 日刊秋田建設工業新聞
- 建設新聞(宮城)
- 福島建設工業新聞
- 日本工業経済新聞(茨城)
- 群馬建設新聞
- 埼玉建設新聞
- 日刊建設タイムズ(千葉)
- 建通新聞東京
- 建通新聞神奈川
- 山梨建設新聞
- 新建新聞(長野)
- 日刊建設工業新聞(北陸)
- 建通新聞静岡
- 建通新聞中部
- 滋賀産業新聞
- 建設経済新聞
- 建通新聞大阪
- 建設工業新聞(鳥取)
- 建通新聞岡山
- 建通新聞徳島
- 建通新聞香川
- 建通新聞愛媛
- 建通新聞高知
- 長崎建設新聞
- 佐賀建設新聞
- 西日本建設新聞
- 日刊大分建設新聞
- 建設新聞(宮崎)
- 鹿児島建設新聞
- 沖縄建設新聞